

安全情報

2010年7月15日

非血縁者間骨髄採取認定施設
採取責任医師 各位

財団法人 骨髄移植推進財団
ドナー安全委員会

骨髄採取バッグの期限が切れていた事例について

このたび、骨髄採取時に骨髄採取バッグの期限が切れていた事例が報告されました。採取施設からの報告によれば以下のような概要です。

<経過>

採取当日、採取用バッグ(カワスミ血液分離用バック)を準備し、骨髄採取を開始した。骨髄採取バッグは、計3バッグ使用の予定であった。2回目の骨髄採取後、バッグへ注入中(500mL中350mLほど注入した時点で)バッグの有効期限が切れていることに気づいた。バッグに破損や漏れのないことを確認し、バッグ内の骨髄は滅菌ビーカーに回収し、全量を新規の採取用バッグに再度注入した。直ちに他のバッグの期限を確認したが、有効期限は2011年6月であった。以降の骨髄採取は予定通り施行し終了した。

なお移植病院には、期限切れのバッグに骨髄を注入してしまったことと、その後、新規のバッグに移し替えたことを連絡した。

<原因>

採取用バッグの有効期限の確認を怠ったために生じたもの。

<対応>

採取施設において、採取用バッグの管理を血液内科医師から、手術室クリーンサプライ管理に変更するようにした。

<患者状況>

移植骨髄注入に伴う有害事象は認めず経過していることを確認した。

当財団としては、当該事実を各採取施設に対し情報提供し、注意喚起を促すこととしました。

以上をご確認の程、お願い申し上げます。

財団法人骨髄移植推進財団
ドナー安全委員会 事務局
ドナーコーディネート部 橋下、折原
TEL:03-5280-2200 FAX:03-5283-5629